

別紙2

三重県 中央会情報連絡員報告総括表 ( 令和8年1月 )

情報連絡員数	40 名	回答者数	40 名	回答率	100.0 %
--------	------	------	------	-----	---------

業界の景気動向(前年同月比)

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員			業界の景況					
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化			
製 造 業	食 料 品	0	4	0	0	4	0	2	2	0	0	3	1	0	3	1	0	4	0	0	4	0	0	4	0	0	4	0			
	織 維 工 業	1	1	1	0	3	0	1	2	0	0	2	1	0	2	1	0	2	1	1	2	0	0	3	0	0	0	2			
	木 材・木 製 品	0	1	1	0	1	1	0	2	0	0	2	0	0	1	1	0	2	0	0	1	1	0	1	1	0	1	1			
	紙・紙加工品	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1			
	印 刷	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0			
	化 学・ゴ ム																														
	窯業・土石製品	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0	0	3	0			
	鉄 鋼・金 属	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0			
	一 般 機 器	1	2	0	2	1	0	2	1	0	0	3	0	0	2	1	0	1	2	0	2	1	0	3	0	0	2	1			
	電 気 機 器	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1			
	輸 送 機 器	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0			
	そ の 他																														
<b>小 計</b>		<b>4</b>	<b>12</b>	<b>4</b>	<b>3</b>	<b>15</b>	<b>2</b>	<b>7</b>	<b>13</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>17</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>12</b>	<b>6</b>	<b>0</b>	<b>16</b>	<b>4</b>	<b>2</b>	<b>14</b>	<b>4</b>	<b>0</b>	<b>18</b>	<b>2</b>	<b>0</b>	<b>15</b>	<b>5</b>			
非 製 造 業	卸 売 業	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	X			0	2	0	0	2	0			
	小 売 業	1	2	3	0	5	1	2	4	0	0	4	2	0	4	2	0	4	2				0	6	0	0	4	2			
	商 店 街	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0				0	1	0	0	1	0			
	サ ー ビ ス 業	1	3	0	X			1	3	0	0	4	0	1	3	0	0	3	1				1	3	0	1	3	0	0	4	0
	建 設 業	1	3	0				0	4	0	1	3	0	1	2	1	1	3	0				0	3	1	1	2	1	0	3	1
	運 輸 業	0	1	0				1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0				0	1	0	0	1	0	0	1	0
	そ の 他	1	1	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	1	1	0	0	2	0				0	2	0	0	2	0			
<b>小 計</b>		<b>4</b>	<b>13</b>	<b>3</b>	<b>0</b>	<b>8</b>	<b>1</b>	<b>5</b>	<b>15</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>17</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>14</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>16</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>18</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>16</b>	<b>3</b>						
<b>合 計</b>		<b>8</b>	<b>25</b>	<b>7</b>	<b>3</b>	<b>23</b>	<b>3</b>	<b>12</b>	<b>28</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>34</b>	<b>5</b>	<b>5</b>	<b>26</b>	<b>9</b>	<b>1</b>	<b>32</b>	<b>7</b>	<b>2</b>	<b>14</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>36</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>31</b>	<b>8</b>			

## 最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和7年1月～令和8年1月)

三重県中小企業団体中央会

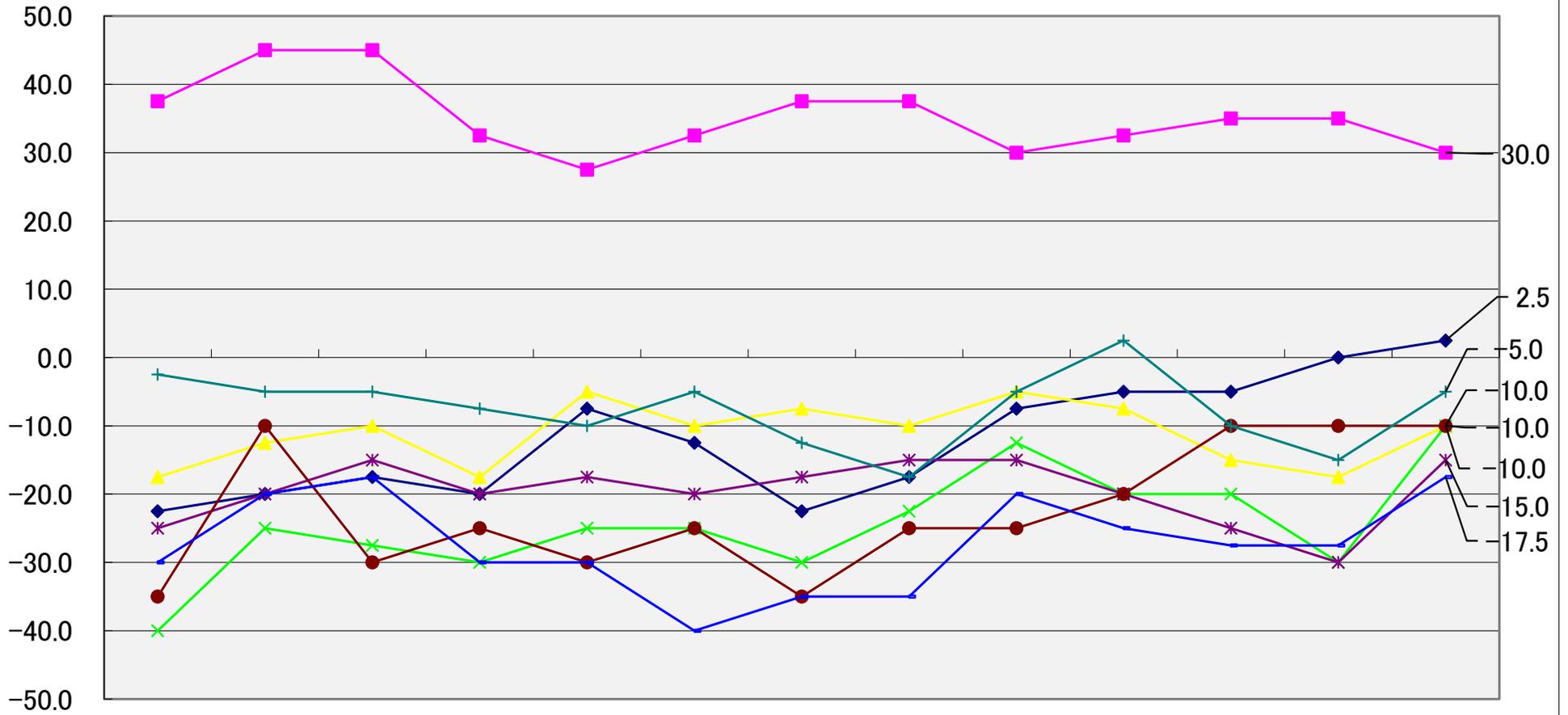
連絡員総数 40名

	7/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	8/1月	増減
売上高	-22.5	-20.0	-17.5	-20.0	-7.5	-12.5	-22.5	-17.5	-7.5	-5.0	-5.0	0.0	2.5	2.5
販売価格	37.5	45.0	45.0	32.5	27.5	32.5	37.5	37.5	30.0	32.5	35.0	35.0	30.0	-5.0
取引条件	-17.5	-12.5	-10.0	-17.5	-5.0	-10.0	-7.5	-10.0	-5.0	-7.5	-15.0	-17.5	-10.0	7.5
収益状況	-40.0	-25.0	-27.5	-30.0	-25.0	-25.0	-30.0	-22.5	-12.5	-20.0	-20.0	-30.0	-10.0	20.0
資金繰り	-25.0	-20.0	-15.0	-20.0	-17.5	-20.0	-17.5	-15.0	-15.0	-20.0	-25.0	-30.0	-15.0	15.0
設備操業度	-35.0	-10.0	-30.0	-25.0	-30.0	-25.0	-35.0	-25.0	-25.0	-20.0	-10.0	-10.0	-10.0	0.0
雇用人員	-2.5	-5.0	-5.0	-7.5	-10.0	-5.0	-12.5	-17.5	-5.0	2.5	-10.0	-15.0	-5.0	10.0
業界景況	-30.0	-20.0	-17.5	-30.0	-30.0	-40.0	-35.0	-35.0	-20.0	-25.0	-27.5	-27.5	-17.5	10.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする  
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

### 最近の主要指標の前年同月比DIの推移

7/1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 8/1月



◆ 売上高 
 ■ 販売価格 
 ▲ 取引条件 
 × 収益状況 
 ✱ 資金繰り 
 ● 設備操業度 
 + 雇用人員 
 — 業界景況

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）		
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いており、また、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、特に電気代の値上がりを経営を圧迫する状態が続いている。昨年からの米の価格高騰の影響により、米の消費が減少しており、それにつれて漬物の消費も伸び悩んでいる。現在、ホームページの更新のため、中央会の指導をいただき、更新作業を進めている。また、新年度は役員改選の年であり、更に事務局の交代も行われるため、新役員体制について調整を行っている。		
	醤油味噌	年が明け、正月は比較的天候に恵まれ、三重県内の行楽地にはにぎわったようである。正月が終わり、日常に戻ると毎年のことながら需要停滞が起こり活気がなくなる。そのような中、衆議院が解散され、いきなり選挙モードとなった。物価高対策として、「消費税を下げる」や「消費税を廃止」をどの党も訴えているが、そうなった場合、中小事業者にどのような影響が及ぶのか。また、中国との関係悪化の解決の糸口が見えてこないため、一部の事業の中国輸出が停滞している。		
	他に分類されない食料品 製造業	昨年末に年末調整で178万円の壁がなくなり、恩恵をうけた人も多数いた。ガソリン減税も、この地域では143円になっている。前回から数か月しか経ってないのに衆議院選挙が始まる。困惑気味だったが、今回は消費税減税や社会保険料が争点になっている。確かに従業員からもボーナスに社会保険料が引かれるのは不評であった。消費税もやっとなら対応できるようになったところだが、一度0%にしてからまた上げることができるだろうか。社会保険料率を下げてほしい。		
	製麺	昨年は11月12月と全体的にはコロナが明けてから良い兆しになっている。値上げの問題があり、今年は値上げの時期を決めて取り組まないといけない状態になる。今年は、全国で麺の品評会がある。伊勢うどんの品評会を行っていけるような取り組みをしていきたい。できれば11月に開催するため、中央会の指導も求めたい。		
木材・木製品	木材	年明け以降も建設コスト、輸送コスト等の高騰もあり、木造住宅需要が上向く気配は見られず、国産材製品の荷動きも低調でコストに見合った価格転嫁が進んでいない。		
	木材チップ	原材料価格が高止まりしているため原料確保が課題である。また、従業員の確保が困難である。機械や消耗品等、修理費の価格が高い。		
製 造 業	紙・紙加工品	古紙	1月の仕入れ量は段ボール・約96±3%、新聞、チラシ・約89±4%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約90±5%程度だった。製紙会社の原紙の総売上高が業界全体の総収入で原資となるが、今も原紙の販売量が減り続けていて、余り物に価格無しの状況下で値下げ圧力が強い。製品原紙の値上げは3月末の仮需を経て4月からの見方がされている。今も組合員1社を除き県内組合員の古紙集荷量は前年比大幅ダウンの厳しい経営状態にある。最低賃金や物価の高騰は実働で汗をかきながら働く経営者や社員等に実質と目に見えない負担となっている。粗利が増える国内情勢・環境に恵まれて、業界内の競争にも歯止めがかかる事を望んでいる。異次元の金融緩和策から金余りとなり、株の高騰、ドル円為替レートの乱高下の状況にあるが、段ボール古紙輸出価格は国内古紙価格より1円ほど安くかなり雑誌古紙輸出価格は国内相場より高止まりしている。古紙や古着の持ち去りやゴミ等の置き去り行為も無くならず、超党派の資源リサイクル議員連盟へ入会をお願いしながらも法律制定は帳簿の閲覧のみとなる見込みで、個人的に古紙業界の将来を危惧している。	
		印刷	当組合は70周年目を迎え、1月22日にホテルグリーンパーク津にて記念事業セミナー、記念新年互礼会を開催した。セミナーについては、全日本印刷工業組合連合会副会長に講師を、また記念互礼会には、来賓として、一見三重県知事、中央会三林会長、田村衆議院議員、山本さちこ参議院議員（当日欠席代理秘書）にご列席いただいた。また組合表彰を行い、前水谷理事長へは、名誉組合員表彰、他5名へは特別功労者表彰を授与した。	
		窯業・土石製品	伊賀焼	窯元は物価高で生活も厳しく、生産性も落ち込み気味である。これからの政治状況で変わってくるが、政治の安定と、中小企業にとってはまだまだ厳しい状況であるため良い方向に向かうことを願っている。
		鉄鋼・金属	鍍金	業界の生産額は、引き続き堅調な状況である。中心は自動車車載部品関係で、EV関連の受注が相変わらず好調であるほか、従来の燃料系車載関連も増加してきている。ただ2～3月にかけては在庫調整が入る可能性もある。
			四日市市	仕入れ価格の高騰、人手不足、採用難と業界全体的にはあまり良い話を聞くことは少ない、多くの企業で生産性の向上と販売力の向上が求められている。今後の労働力人口の低減についてどう対応していくべきか悩ましい、自動車業界の設備投資の低迷は続いている。半導体業界が好調と聞くと、こちらも2極化しているような話もよく聞くようになった。

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
一般機器	津市	売上高は昨年と変わらないが、昨年より材料単価が上がっているため、昨年より悪い状況が続いている。新規の案件については材料や人件費は上がっているが、安い金額でしか獲得できないため価格に反映ができない。金額を上げると他社（海外）に流れてしまい、特に金型の受注は厳しさを増している。
	伊勢市	先月に引き続き景況感は良くなってきている。設備の稼働率はアップし、設備投資も増えてきている。注文は引き続き増え、売上も少し良くなった状態が続いている。自動車関連は引き続き良い感じは続いているが、工作機械の先行きには不安を感じる場面はある。選挙が終わり、思い切った経済対策が打ち出されて、このまま持ち直して良くなっていくことに期待する。
	鳥羽市	期末に入って少し動きが出てきたが、1月になって急速に受発注が落ち、今までにないような悪い状況になりそうである。
電気機器	鳥羽市	期末に入って少し動きが出てきたが、1月になって急速に受発注が落ち、今までにないような悪い状況になりそうである。
輸送機器	伊勢市	受注は一般機械器具、自動車部品ともに昨年比では増加、採算面では1月は稼働日数が少ないことも影響しマイナス。ただし、前年比では好転が見られる。自動車関連では、ハイブリッドの需要減少ペースは緩やかになる見込みで、既存部品の受注減少ペースも鈍化しそうな情勢ではあるが、円安による物価高止まりの懸念増大、本年春闘の賃上げ目標の上昇等、収益環境は厳しい状況が続くものと考える。
小売業	青果	（野菜前半）冷え込みのため葉物野菜などが一部少ないものの概ね順調である。特に大根、白菜、キャベツなどはお買い得になっている。北海道玉ねぎは高値が続いている。レタス、ブロッコリーもやや高値である。（野菜後半）全体的に入荷は順調である。愛知、茨城産のキャベツは今後、少雨のため数が減り葉が緩くなるといった影響が出そうである。白菜も徐々に小玉傾向になってきた。キュウリは節分の恵方巻の需要が過ぎれば価格も落ち着く見込みである。地場産ハウレン草はお買い得である。（果物前半）柑橘類の数量が昨年より多く価格も落ち着いている。特に愛媛産のイヨカンは今月末から2月上旬がピークになりお買い得になっている。県内産イチゴも入荷が増えお買い得になっている。（果物後半）柑橘類がピークを迎え、量・種類とも豊富になってきた。イヨカンは入荷が多くお買い得になっている。青森産サンふじは味がよく人気だが価格は高値が続いている。地場産イチゴは入荷が増え、味もおいしくなり今が食べ頃で価格も安くなってきた。
	自転車	大手企業の冬の賞与が過去最高の100万円超となり、賃上げの勢いが定着したことも確信できた。また、個人の能力に応じた報酬制度を導入した企業も数多く見受けられるようになった。その中でも一般消費者の節約志向は高まり、物の値上げ疲れによる買い控えが目立ち、必需品でもある新入学通学車を見に来店するも料金、品定めのみで帰られるユーザーが多く見られる。ここに来て、ブリヂストンサイクルは部品の高騰に歯止めがかからない状況下で、プロモーションパーツ、メンテナンスパーツの最高20%アップ都市、ホームページ上でお客様に対するお知らせ開始となった。ホダカ（株）では、1月21日受注分より商品配送料（七分組完成車1箱）2,500円が各ショップの自己負担となった。
	電器	年が明けてからの動向としては、年末までの駆け込みや県の省エネキャンペーンが終了したこともあり静かな動きだった。寒くなる時期が中途だったこともあるが、石油系の暖房機器が例年に比べると台数が出ていないように思える。その代わりでもないが、給湯機器（エコキュート）やエアコンは買い替えも含めて若干の動きがあった。
	石油	欧州連合（EU）欧州委員会は12月16日、エンジン車の新車販売を2035年から原則禁止する政策を撤回する方針を発表した。自動車メーカーに走行中のCO2排出量を、自社の新車全体で平均90%削減するよう求め、達成できればエンジン車やハイブリッド（HV）の販売を認める。電気自動車（EV）の普及が想定より遅れており、欧州の自動車産業を保護する狙いである。気候変動対策で世界をリードしてきたEUが環境対策を大幅に緩和する。HVに強みを持つトヨタ自動車などの日系メーカーの販売にも追い風となりそうだ。我々ガソリン業界にとっては良い話でもあり、現状のSS施設をそのまま活用でき、CO2排出をゼロとみなす合成燃料（e-fuel）の早期製造販売に期待する。
	スポーツ	年も明けて、また今年も商品の値上げラッシュが続くようである。いかに利益を上げて維持していくかが今後の課題である。

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
商店街	熊野市	今月開催された商店街イベントは、熊野のさんま丸干しを広くPRする「熊野きのもとさんま祭り」が開催され1000本が振る舞われた。熊野商工会議所との共催にて開催されたこのイベントも今年で11回目を迎え、広く他地域でも認知されつつある。今年は雪が舞う悪天候にもかかわらず、ふるまいがスタートする10時前までにはたくさんの方が列をなし焼きあがったさんま丸干しに舌鼓をされていた。ただ名古屋方面からのバスツアーは残念ながら高速の通行止めのため中止となった。また、出店されたさんま販売業者の売れ行きは今回も相当な売れ行きがあり、他の出店業者も含め売れ行きは好調でお昼前には売り切れる店舗も多く盛況であった。
サービス業	旅館	今年の年末年始は9連休の方々も多かったようで、12月26日から1月3日まで満館の旅館が多かった。その後の3連休も各地で賑わっていたようだ。昨年は「大阪万博」に集中して春先の予約も少なかったが、今年は春先の予約も好調に推移している。実績は対前年同月比110%、2019年同月比は70~80%程度であった。
	警備	警備業全般としては、現在のところ受注は変わらないが、今後はロボットの採用等による受注減が危惧される。
建設業	総合工事業	令和7年12月の公共工事の県内企業の受注状況は、前年度同月と比べて減少となった。内訳でみると、構成割合の高い県発注の減少が要因となっている。4月から12月までのトータルでは県内企業の受注は全体で16%増となっている。
	内装工事業	1月は対前年同月比で増加となった。ただし物価高によるものである。原材料価格の高騰により、業界の状況は思ったほど良くない。2月の選挙で勝った政党が今後国内政策で内需を喚起していくかにかかっている。
	電気工事	当組合の組合員数は、昨年度末455事業所であったが、青年部員の積極的な加入拡大の活動と組合員の地道な声掛けにより、1月末現在459事業所と4事業所の増となった。（8事業所加入、4事業所退会）組合員数は、過去から年々減少傾向にあり、特に一人親方で高齢化による廃業により至近10年間で2割強減少してきたが、今年度末は増となる見込みである。
	水道工事業（亀山市）	資材等の価格の上昇がまだまだ続き、また、資材の納期にもまだ時間がかかるものがある。手に入りにくい品物もある。安定するかと思ったが、価格は高値で推移している。人材不足もあり、不安定な状況が続いている。

## 行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	他に分類されない食料品製造業	改革ができなければ取り残されて廃業になりそうな気配を感じている。世代交代の必要に迫られているが、何から手をつければよいかわからない。
食料品	製麺	動向でも書かせていただいたが、100年フードで伊勢うどんを認定いただいた。Lタイプ（常温タイプ）の伊勢うどんの品評会について、業界の励みになる取り組みにチャレンジしたい。
一般機器	四日市市	賃上げ、社会保険料の増加などなかなか収益の改善が難しい状況は続いているが、昨年に比べ仕事量は増えてきていると感じる。業界全体が厳しい中、販売価格を上げていく努力が必要と感じる。中小企業の今後の経営環境が改善されるよう支援をよろしくお願いいたします。
建設業	総合工事業	資材価格の上昇傾向は続き、人材確保が困難な状況は変わっておらず、収益の減少傾向は続いている。また、人手不足が最も経営上の課題であり、加えて従業員の高齢化も課題となっている。
サービス業	旅館	諸物価の高騰、賃上げ等、厳しい経営環境にあってもそれを乗り越えていかないと明日はない。景気が好転して経済が活性化することを願う。